

実施して来たところでございます。祭りばやしは、各山車、保存会等が主体となり、保存伝承しており、毎年、祭りばやしコンクールに向けて、一生懸命練習しているところですが、今年は、御渡祭中止により練習も出来なかったことは、子ども達にとっても残念なことで、お祭り期間以外にお囃子に触れる機会があるということは、大変良いことと思います。一方で、新型コロナ感染予防の観点から、子ども達だけではなく、準備や指導する方々が集まることへのリスクや、不安を始め、山車関係者の事前の練習の管理などの負担も考慮しなければならないものと考えております。いずれに致しましても、御渡祭の運営主体である、姥神大神宮祭典協賛実行委員会に対し、主旨をお伝えしながら、各山車保存会や、関係者の意見等を踏まえ、実施の有無を含めて、今後、どのような取り組みが出来るか協議して参りたいと考えておりますので、ご理解願いたいと思います。

「小梅議員」

はい分かりました。

(議長)

いいですね。

「小梅議員」

終わります。

(議長)

はい。以上で、小梅議員の一般質問を終わります。

午後1時迄、休憩致します。

休憩 11 : 52

再開 13 : 00

(議長)

休憩を閉じて再開いたします。

一般質問から入ります。

次に出崎議員の発言を許可いたします。

出崎議員。

「出崎議員」

北の江の島構想が今年度から開始している、第6次総合計画に重点施策として位置付けられ、実施計画に移行する運びとなりました。議会に設置された総合計画等特別委員会においても、周辺地も含めゾーンごとの整備について具現化のために議論を重ねました。そこで、かもめ島本体の活用方針について、町長のお考えをお伺いいたします。これまで議

会等における議論では、かもめ島本体は自然環境を保全し、歴史的遺産として後世に残すという意見が主流のように感じております。この町は海岸に立地しております。山があり海があり、近くに島があつて、今時の言葉で言えば三密の世界です。この地の特色は、この立体的な三次元の地形にあります。私も長く地域計画の仕事をしてきましたけれども、北海道においてこのような場所を知りません。いにしえの人達は、困難を克服して蝦夷地へ渡つたおり、この地の特色に着目し、それを活かしてここに町を造りました。それが先人の知恵です。私達が真に学ぶべきはこの積極的な創造の精神ではないでしょうか。江差町の現状を考えた時、単に先人の遺産としてその恩恵を被るだけでは、少し情けない気がします。例えば、島の上へのアプローチにしても、今の段階だけでは高齢者のアクセスが困難になってきます。これからは町民もそして観光客も高齢化してきます。先日の映写会のようなイベントにおいても、高齢者の参加が制約されてしまうのではないのでしょうか。昔と今の大きな違いはなにか。それは科学技術の進歩にあります。整備の仕方によっては、お金も時間も要することになります。しかし、まずはビジョン。どんな島が望ましいのか、町民の為の島のあるべき姿を追求し、その上で現在の科学技術を駆使して、魅力ある島の実現を図る。そう願うものであります。道立自然公園特別地域の制約の中で、残すべきものは残すとして、遺産として活用するだけでなく、私達の町民の資産である島本体を、町づくりのために積極的に活用するべきと考えますが、町長の所信をお伺いいたします。

(議長)

町長。

「町長」

出崎議員からのかもめ島を町づくりのために積極的に活用すべきでは。とのご質問にお答えいたします。かもめ島は江差町のシンボルであり、議員ご指摘の主旨にもありますとおり、この町の歴史を作り上げた主要な資源であります。ご高齢者の皆様からは、直接または間接的に、愛着あるかもめ島へ気軽に登れるようにならないかという声を、少なからず、そういう声が少なからず寄せられていることも承知しています。

とは申しましても、例えばスカレーターのような構造物を島に整備するのは、この町の自然環境を考慮すると、現実的ではないと感じています。私は、かもめ島上の展望や解放感、あるいは歴史的史跡等といった独特の魅力によって、観光客は元より、キャンパー更には町民においてもまだまだ多くの方々に目指して頂ける場所であると確信しています。そういう意味では、現在の自然環境を著しく変化させることはなく、今よりも、上り下りが楽な対応策が無いか、あるいは島上で不便なく楽しめるための環境について、若干の整備が必要と考えております。いずれにいたしましても、出来るだけ早い時期に島上で計画を阻害する建物の撤去をはじめ、訪れた方々が楽しめる魅力向上のあり方について、整備方針を検討し、ご相談させて頂きたいと考え下りますので、ご理解願いたいと思います。

(議長)

いいですか。

出崎議員。

「出崎議員」

はい。再質問ではないんですけども、私としてはより積極的な活用を望むものですが、新しいまちを標榜する江差としては、その新しいまちの部分、これをどこにどう実現するかということについてですね、かもめ島の活用がありえるのではないかというふうに考えております。

町長の意見をお伺いしましたので、質問はこれで終わります。

(議長)

答えいりませんか。

「出崎議員」

はい、いらないです。いりません。

(議長)

はい、以上で出崎議員の一般質問を終わります。

次に大門議員の発言を許可いたします。

「大門議員」

はい、議長。

(議長)

はい、大門議員。

(「議長」との声あり。)

「室井議員」

議長、議事進行。

(議長)

はい。

「室井議員」

再質問でないという、質問ってあるんですか。なぜ止めないんですか。再質問でなかったら。無駄にしゃべっていいんですか。

(議長)

はい、分かりました。

「室井議員」

議長と議運の委員長でちゃんと連携してやりなさい。

(議長)

はい、分かりました。

出崎議員。今の言ってるのはですね、意見とかってことは言うのは駄目だと。よって私もですね、親切にしたんですけども、そういう意見がありましたので、質問以外に意見を言うということについては、これは私は今度は受けませんので、ご理解をして頂きたい。

(議長)

次に大門議員の一般質問です。

はい、大門議員。

「大門議員」

はい。私からの質問はですね、町道尾山田沢線雨水排水について質問いたします。

田沢橋の尾山町側にある山端宅前の雨水排水溝は、降雨量が多い時、排水が間に合わなく溢ます。住宅前が浸水する状態になります。現在は、降雨が予想される時に土嚢積みにて対応しておりますが、住民の方は不安で寝れない時も有るとの声があります。ついては、排水溝の改良が必要と考えますが、今後の対応について検討がなされているのか伺います。

(議長)

はい、町長。

「町長」

大門議員からの町道尾山田沢線の雨水対策についてのご質問に対しまして、ご答弁申し上げます。議員ご指摘の箇所につきましては、過去の降雨時において、町道の排水が飲み切れず、道路に接する周辺地域が浸水するなどの被害があったことについては、承知をしているところでございます。当時、周辺道路排水のほとんどが当該箇所に集中する状態と